

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	- 文章を書くことに関して、量と内容に個人差がかなりある。 - 基本的な文法や漢字を用いて、自分の考えが伝わるように書くことが苦手な児童が多い。 - 文章に書かれていることを正確に読み取ったり、叙述に沿って読んだりすることが苦手な児童が多い。	- 音読カードで文章を声に出して読むことを習慣化させたり、辞書を進んで使い漢字を使うことを意識させたりしていく。 - お互いの書いたものを読み合い、校正したり、よいところを見付けあったりして、自分の文章に生かせる機会を作る。 - 音読カードの活用や、朝読書の時間に読んだ本をカードに記録することを通して、読書する習慣を身に付けるようにする。	
社会	- 資料から必要な情報を読み取る力が不十分である。 - 日常の生活や身近な地域から課題を発見したり、資料から読みとったことを活用したりすることが難しい児童が多い。	- ICT 機器を計画的に活用し、多くの児童が興味関心をもって学習に取り組んだり、課題をもって取り組めたりするようにする。 - 単元の学習課題やまとめ活動を児童の実態に合わせて設定したり、資料を読み取る意味やそれを活用する目的をもたせたりするようにする。	
算数	- 学習理解の個人差が大きく、既習事項が身に付いていない児童がいる。 - 問題解決に意欲的に取り組むが、既習事項を用いて自身の思考をまとめたり、表現したりする能力に課題のある児童がいる。	- 毎時間、問題解決をするための時間を多く取り、自分の考えを図・式・言葉で表現する学習を継続する。 - 毎時間のふり返しを行い、授業で身に付けた知識技能をその都度ふり返れるようにする。	
理科	- 根拠ある予想や仮説をもとに、実験方法を発想するなど、課題を解決する手だてが身についていない児童が多い。 - 結果から分かったことを分析・考察したりする力が弱い児童が多い。	- 結果の見通しをもつ学習活動を多く行うとともに、情報交換を行う場を設け、自分の予想の立て方や妥当性について振り返らせる。 - 理科の見方・考え方を意識に働かせるように価値付け、自分の考えを言葉や図などを使って表現する学習を継続する。	
生活	- 気付いたことを文や作品にまとめる力には差が見られた。 - 与えられた課題以外に、自分たちで活動したいという発展的な意識を育てていきたい。	- 観察のポイントを示し、観点を決めて記録できるようにすることで、基礎的なまとめる力を育成する。 - 様々な活動例を示すと共に、生活科の授業以外でも朝の会や学級活動などで学んだことを活かせるようにし、発展的な意識の育成につなげていく。	
音楽	- 曲の特徴や気付きから、どのように表現したいのかを結びつける経験が少ない。 - 人前での発表や自分の思いをもって表現することが苦手な児童が多い。	- 発想や気付きから得られた知識を板書等で蓄積し、どんな音や声で表現したいのか、思考する場を設定する。 - 常時活動で拍やリズム打ち等の音楽の基礎となる活動を楽しく積み重ねることで、自信をもって表現できるようにする。	

	課題分析	授業改善策	改善状況
図 画 工 作	・自分の考えや工夫したことなどを言葉を用いて説明したり、まとめたりする力が不足している。 ・高学年で自分の意見を発表することが恥ずかしいと感じる様子が見られる。 ・発想や構想、技能面で個人差がある。	・造形的な視点で語彙を増やしたり話型を活用したりすることで、考えをまとめたり説明したりする力を培う。 ・心を開いて活動できる雰囲気づくりを行う。 ・心や感覚を刺激するものとの出会いから、主体的なイメージを立ち上げて活動できるような題材、授業展開を工夫する。	
家 庭	・興味関心をもって意欲的に取り組む児童が多い。 ・手先の不器用な児童がおり、基礎的な裁縫実習では若干の技能差がみられる。	・自分たちの思いや願いを大切にして、創意工夫がしやすいものや自分や家族の生活に役立つ教材選択を心がける。 ・児童が創意工夫をしながらも、計画を立てて、実践し、評価・改善するまでのプロセスを評価できるような計画を立てて指導する。	
体 育	・自分に合っためあてをもって学習に取り組むことができない児童もいる。 ・チームワークを高めたり、教え合ったりする力が弱い。	・毎回、学習課題に合わせて、自分のめあてをたて、習熟度やグループに合わせた、技の良い例を確認することで、自己の運動の課題を見付け、改善することができるようにする。 ・友達同士で教え合ったり、よいところを伝え合ったりするなどのグループ学習を取り入れることで、主体的で対話的な学習ができるようにする。	
外 国 語	・外国語への興味、関心はあるが、自信をもった発話にはいたっていない児童がいる。 ・外国語での表現の定着に時間がかかる。また、意味を理解できずにつまずく児童もしばしば見受けられる。 ・アルファベットの書字に課題がある。中学年から外国語には触れているが、書く学習を毎回少しでも取り入れていく必要がある。	・興味をもっている児童には、外国語でのコミュニケーションを楽しめる機会を増やす。 ・音声や映像教材を多く取り入れ、英語の音声や文字と具体的なイメージをつなげられるようにする。 ・アルファベットの学習を毎回取り入れ、十分に書く時間も確保する。	